

SPECIAL

脳卒中と 脳卒中あんしん連携ノート



脳神経外科部長

たきがみ まさよし
瀧上 真良

脳卒中について

脳卒中は、再発しやすい病気で、1年以内には約10%が、5年以内には約30%、10年で約50%の人が再発すると言われています。したがって、急性期治療からリハビリへと長くて辛い治療をお終えて在宅復帰されてからもなお再発予防のための継続的医療が重要な課題となります。

地域医療連携について

医療の高度・専門化、細分化、医師不足、介護者不足など医療を取り巻く環境は日々厳しさを増しています。そうした中、限られた医療資源を有効に活用し質の高い医療を提供していくためには、地域の医療機関の役割分担と連携が欠かせません。とりわけ脳卒中では、後遺症を有する患者さんが多く、また再発のリスクも高いため、急性期病院を退院した後も継ぎ目のない医療が求められています。

「脳卒中あんしん連携ノート」とは

こうした現状を踏まえて、脳卒中再発防止を目的として健康管理をしていくための重要なツールとして「脳卒中あんしん連携ノート」が北海道地域連携クリティカルパス運営協議会において作成されました。このノートは、退院時に患者さんに渡され、患者さんが自身の情報を持ち歩き、専門医とかかりつけ医の間を往復しながら疾患管理・健康管理に使用するという形の地域医療連携パスです。

ノートの構成は、前半が脳卒中再発予防に必要な疾患知識や具体的な目標値、危険因子に関する教本、中盤は退院後の治療計画、かかりつけ医や専門医への通院の記録、後半は日々の自己管理、生活の記録からなっています。

主にかかりつけ医には、脳卒中の危険因子、生活習慣病などの日常的な全身管理を担っていただき、専門医はMRIやCTなどで専門的検査を実施し定期的評価をおこなっていきます。再発が疑われる場合には、速やかに専門医の診察を受けることが肝要です。

急性期を過ぎた脳卒中患者さんが慢性期まで安心して過ごせる医療の提供を目指しています。この「脳卒中あんしん連携ノート」が各医療機関、医療・介護スタッフとの橋渡し役となり、信頼性の高い連携体制が構築され、ひいては脳卒中再発防止に寄与し、患者さんによりよい医療が提供できるように取り組んでいきたいと思っています。皆様方には、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。



北海道地域連携クリティカルパス運営協議会編